

足寄開拓農協の記念式

るもので、喪心から執着を表現したい

尾崎 けさはいいか

松山 昨日、雨が

つぎに祝電として中川農林水産大臣から「足寄町開拓記念堂完成に際して」

山の方はどうか、標高四五

しあげます。困難な問題と

尾崎 もうスト

念典喪典を心からお祝い申

松山 朝はたいて

野で開拓魂を發揮して三十

年、こんな成果をあげ

たんです。松山と合流を

尾崎 一足飛びに

「私を見つめて」
私が見えない何かならそ
の心に叫んでやる。「お姑
さんを見てやつてごらん」
に、お姑さんに好きなに「つ
に、お姑さんの思が兄さま
の心に届いて欲しい、とい
うように「グバカ」をだつて
向いて涙をぬつて泣いて

後姿を見つめている兄み
思い出しておいてくれ

(発行所) 北海道足寄町 とかち新聞社 電話5-2551
毎旬5の日発行 1ヵ月200円 1カ年前納の場合2,000円

じめみさの団結と努力
 のためにも、深くお慰
 ます次第であります。本日
 の三十周年記念式にさし
 こんば祝いの不とうな精
 神をとらえんご一層のこ
 敬義を期すための賛襄
 の三十周年記念式であら
 うことと願ひ、みなさま
 のご健勝と親しいお祝ひ
 のごあいさついたしました
 以上
 壇内司長 望月全閣開拓
 農協連合会長は、各地方
 からの披露があり、この
 あゝ組合本部に中川大
 塚の墓ごつて、記念金牌の
 縁章があつて、祝宴に
 つづきました。

松山の開拓
 足寄町で
 所財にいまいと
 松山、阿高が
 阿高が希希果
 すほどの顔面

いつまでも心にのこる
 各種おくりもの
 内祝・全快祝・快気祝

開拓拓殖がありま
 だ、東京あつ
 だ、東あつ
 だ、東あつ

拓団が二十年

[illegible]

「帰ろ」

私も自然の田で育つて、私どもはよいか千草さんの実情が分る氣がした。

母の家が東京近郊の良くて行つてもつたりするだけ、心も体も疲れるばかりで田舎へ行くに見えなれど、田舎者だげど、まだ膝の邊まで青い空の輝を知つてゐる、いまコクリーやアスファルトの中であんな驚思はしました。家へ帰れば思ひ切りの憂ひで心も体も萎められるんです。

北の自然は果てなく大きいのです。

「君のそばに」

です。でも私の父はなつ一人です、忘れなかつた父さん、春のお父さんおさんはつても御幸せです。

「根」

悩事のある時なんならに言つてくれるが、いかに言つてくれるが、いかに言つて直ぐよなからさう氣な顔してて夜布の中へ這入っているわ、本当に配してゐる人、近くにたに苦めるひとなんてないですね、私にどの文書ばかりでけめん

★ ★

足寄町の H・M さんに「近畿のむらさきに釋

月一日
総裁公
なつて
も自民
ニュースを斬る
總裁イコ
ので、
のです
は百五

つぎの日、十一日午前六時十分からNHKラジオの全国放送でこの日のものごとけとありあられたことも、尾崎アナタツ、各地の表情やその詩々のいろいろな話題をお伝えしてあげて、中川義経松の揮毫の贈りやする開の除けさや北海近寄りにあはれと新聞社社長松山明さんとお話しを伺うごたいです。

松山 はい、おはようございます

とか時服歴さんか

「雨あがりの街」
ととても思ふといつたのに
一生けん命つゝかへし出
雨あがりのがきれいに見
えるのはまたさういふ
好きだからとの思ひ、誰か
を好きな時でも、部屋な
て行くも、お屋敷まで下
行くとお姉さんが付いて
下さる。雨あがり下り
の街を悠かりながらお
姉は涙に泣いていづばいす

「若いが好きさ」
君の空の下カララとよ
風の中で光っているもの
の色をさん好みで、情
色をさん好み、ぱらぱ
らの瞳と同じ色、お兄
さんの姿がかないます様
に「異方だな」
えが消えていつく様で
分の体は何処へ行んだ
う、足は勝手に進むべ
いまだ愛する人のこと
いづばいなんだ、とても

に優るちよつとおかし
麗しけるお兄さん、お兄
ど真なる顔をして見ん、だ
でも、お兄さんの心はどこ
でも隠しくて、女の心のまが
も、お兄さんのそばにいます。ず
うと千春さまで歌へいいわ。
「父さん」

七月十三日の夜父さんが
せんろう火花をつて来ま
した。火花をしながら私に
ビールを飲みなら父はい
いました。「この日をお前の

里の歌
千春の丘
千春の丘をたふコン
源して千春の丘たふコン
ト今ある里の丘を抱か
幾千の若きい集ふコンサ
ト、千春の努力の歌の数
なりふさづけていた千
なりふさづけた丘は千
欲す
若くし名を為す千春の
力とか処になされたら
親の親」

ち 努 か 春 か 1 れ ナ 7

むら なご と が、 聞 わ、 たふ す 母 お た

REPRODUCTION OF *INTELLIGENT COPY* FROM THE ORIGINAL DOCUMENT